

平成28年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画			実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	当初目標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
				※工事実施決定後の数値					
1 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援	◆体験型教室の開催 ・一日体験教室(手びねり・絵付け)	●一日体験教室の開催 □手びねり・絵付け体験開催数	11回/年	6回/年	6回/年	B	【成果】 1日体験教室(季節のやきもの)は当初の想定よりも、沢山の受講希望者や、問い合わせがありました。器だけに特化せず土を使用した多様な作り方、楽しみ方が出来る作品づくりに需要がまだあり、次年度の講座企画の参考にすることが出来ました。 また、通常の1日体験教室で使用する釉薬の種類を変更した結果、利用者の反応も良く、引き続き他の講座に参加される利用者もみられました。初心者に興味を喚起する講座の企画が今後の陶芸人口の増加・拡大の重要な変換点であることを再認識する事ができました。 各種媒体を使った広報では、スマートフォンでのアクセスをより容易にするためのサイトの改良や、映像によるホームページ、館内のディスプレイでの講座案内など『陶磁器の出来上がるまで』の解説映像により多くの情報を発信することが出来ました。  【課題】 例年開講されている全ての講座について、テーマや実施方法について、マンネリ化していないかを常に検証することの必要性を常に意識すること、また、利用者のアンケートによる要望だけではなく、作陶を通しての『視点を変えたもの見方』への興味を喚起する企画づくりが、これから陶芸普及の必要条件であると思われる。 また、ハンディキャップのある方や外国の方がスムーズに作陶体験が申し込めるように英会話による対応、バリアフリー環境づくりがより必要になってくると思われます。 今年度は、夏休み親子陶芸教室の講座募集方法を今までのFax・電話・ハガキからの申込方法から往復はがきでの募集方法に変更しました。また、開催日程の一部が市内小学校の終業式に重なり、1日だけ講座応募者0人となってしまい、急ぎよ自律型教室に切り替えました。毎年の市内小学校の夏休みスケジュールの日程の発表が遅くなるため、次年度は、早い段階での情報収集を行うことが必要となりました。	【評価できる点】 28年度から開始した「一日体験教室(季節のやきもの)」については、受講希望者数も多く、手応えを感じられる結果でした。新しい切り口を検討して講座を検討していることの一つの成果であったと考えられます。 広報手法についても、様々な環境を整えている点について評価します。今後も積極的な活用に期待します。  【改善が必要と考えられる点】 耐震補強工事による休館が、各種講座や事業実施に大きな影響を及ぼしている点がありますが、目標に達していない講座「手びねり初級・中級」「電動ロクロ初級・中級」等は、今後、周知方法、内容の検討が必要と考えます。内容について各種検討を重ねた結果を、届けたい層に届けるかという視点を持っていただきたいと考えます。 また、親子陶芸教室については、施設としてターゲットを明確にして、取り組んでいるものであり、子ども達へ陶芸文化を伝える講座であることから、より多くの参加者を得られるように、さらなる工夫を望みます。	
		□目標利用者数	180人	96人	134人	A			
		・一日体験教室(電動ロクロ)	□電動ロクロ体験開催数 □目標利用者数	10回/年 130人	6回/年 78人	6回/年 79人			B B
		・一日体験教室(季節のやきもの)	□季節の焼き物体験開催数 □目標利用者数	4回/年 40人	2回/年 20人	2回/年 27人			B B
		・親子陶芸教室	●親子陶芸教室の開催 □開催数 □目標利用者数	17日/年 650人	17日/年 650人	16日/年 552人			B C
		・陶芸祭体験教室	●陶芸祭手びねり体験、ロクロ体験、楽焼の各教室開催 □開催回数 □目標利用者数	4日間 140人	4日間 140人	4日間 148人			B B
	◆基礎型教室の開催 ・手びねり初級・中級	●手びねり初級教室の開催 □開催数 □目標利用者数	3回/年、24日間	2回/年、16日間	2回/年、16日間	B			
		●手びねり中級教室の開催 □開催数 □目標利用者数	3回/年、24日間	2回/年、16日間	2回/年、16日間	B			
		・電動ロクロ初級・中級	●電動ロクロ初級教室の開催 □開催数 □目標利用者数	3回/年、21日間	2回/年、14日間	2回/年、14日間			B
		●電動ロクロ中級教室の開催 □開催数 □目標利用者数	3回/年、21日間	1回/年、7日間	1回/年、7日間	B			
		●自由作陶教室の開催 □開催回数 □目標利用者数	350日 7,700人	220日 4,853人	220日 4,553人	B B			
		●第2自由作陶教室の開催 □開催回数 □目標利用者数	46日 1,300人	29日 819人	29日 785人	B B			
	◆気軽に陶芸を体験してもらう取組 ・電動ロクロ1日体験(再掲)による市民の作陶体験	●気軽にできる陶芸体験 □電動ロクロ1日体験の開催(再掲)	10日間/年	6日間/年	6日間/年	B			
		・陶芸祭での事前予約なしの体験の場の提供	□予約無しでの陶芸体験	4日間	4日間	4日間			B
		・各種媒体を使った広報	□新聞・タウンニュース・市営バス内の無料パンフレット等への掲載や陶芸関連書籍、陶芸関連WEBへバナーをアップする。	実施	実施	実施			B
		・在留外国人向けの英語のチラシ・パンフレット作成	□一日体験・自由作陶教室・貸室等在留外国人向けに英語版のチラシ・パンフレットを作成	実施	実施	実施			B
	◆次世代育成の取組 ・親子陶芸教室での小学校1年生程度を対象とした陶芸解説資料の作成	□ハンディキャップのある方が作陶しやすいスペースを確保するために、作陶台周辺や釉掛けスペースのレイアウト改善に向けて検討する。	検討を実施	検討を実施	検討を実施	B			
		・映像による紹介	□一日体験作陶ガイダンス等を映像で紹介説明	実施	実施	実施			B
		●作陶活動への興味を喚起 □小学校低学年を対象とした焼物に関する解説資料を親子陶芸などで発布	実施	実施	実施	B			
	◆映像による紹介	□手びねりや電動ロクロでの作陶方法を映像でわかりやすく紹介	実施	実施	実施	B			
		1日体験教室案内・陶磁器が出来上がるまで・陶芸祭・穴窯焼成講座DVD制作。ホームページ、館内ディスプレイで放映	実施	実施	実施	B			

平成28年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

2 市民の主体的な作陶活動の支援	6	◆専門技能習得講座として、多くのテーマの講座を企画・実施 ・電動ロクロ水挽き徹底教室 ・絵付け教室 ・特定のやきもの教室 ・還元焼成講座 ・大物焼成講座 ・穴窯焼成講座 ・楽焼焼成講座 ・サヤ鉢焼成講座 ・招待作家講座	●専門技能習得講座の開催 □電動ロクロ水挽き徹底教室、年間2回、8日 □目標利用者数	2回(8日間)/年	1回(4日間)/年	1回(4日間)/年	B	【成果】 電動ロクロ水挽き徹底講座では受講者のロクロ作陶技術への真摯な向上心が男女・年齢に関係なく見て取ることが出来ました。 招待作家講座では世界的に有名な人気女流作家であるルーシー・リーの陶芸技法を小山耕一先生から直接指導を受けることが出来るため、利用者の向上心とが相まって、技術を吸収しようという集中力と意欲が見られる人気講座となりました。 また、還元焼成講座では、酸化焼成には見られない還元焼成作品ならではの釉薬の変化や、御本手の発色などに興味を惹かれ、年々、参加者が増加する講座になりました。 『全国公募・横浜アマチュア陶芸展』入賞者と陶芸センター利用者の作品展示会を同時開催し、団体での見学者もあり、来館者に好評な企画となりました。毎年11月は本牧公園で陶芸祭が開催されることが近隣地域に認知されるようになり、陶器市バザーを楽しみにしているリピーターも増えてきました。  【課題】 陶芸祭での作陶展、ホームページ上で毎年実施するネット特別賞などの人気投票は、今回耐震工事による休館間近なことからお休みとなりましたが、利用者の皆さんの中には、自分の作品が投票で優劣をつけられる様な感じがして、出品を固辞される方もおられ、出品者数を増やすには、展示のみの展示会も検討する必要があります。 特定のやきもの作り教室の企画内容は人気のある講座ですが、定例化しており、もっと完成作品の用途を良く考えた器の講座企画により、集客数が増える新たな講座を企画検討中です。	【評価できる点】 専門技能習得講座として様々な講座を実施し、多くの講座で目標を上回る実績となった点を評価します。  【改善が必要と考えられる点】 陶芸センター利用者の作品展示会については、利用者の発表の場として重要なものと考えます。人気投票の実施は、一長一短ありますが、陶芸センター利用者以外の方で、通りがかりに「陶芸祭」を訪れた方にとっては、イベントに気軽に参加できる仕掛けの一つでもあります。今後、作品発表をどのように実施するのがよいか、引き続き、検討が必要です。
		□絵付け教室 □目標利用者数	2回(6日間)/年	1回(3日間)/年	1回(3日間)/年	B			
		□特定のやきもの作り □目標利用者数	3回(12日間)/年	2回(8日間)/年	2回(8日間)/年	B			
		□還元焼成講座の随時開催 □目標利用者数	実施	実施	実施	B			
		□大物焼成講座の開催 □目標利用者数	2名/月	2名/月	2名/月	B			
		●その他単発講座の企画・実施 一日上絵付け講座、染付(半日)講座を予定していたが、工事による休館ため実施せず ●招待作家(外部)による特別上級講座1回(年間) □目標利用者数	実施	—	—	B			
		●招待作家(外部)による特別上級講座1回(年間) □目標利用者数	2回/年	1回/年	1回/年	B			
		●招待作家(外部)による特別上級講座1回(年間) □目標利用者数	48人	24人	24人	B			
7	◆作陶活動の成果発表の場の提供 ・陶芸祭での作陶展、ホームページで実施するネット特別賞、「全国公募・アマチュア陶芸展」による全国規模の作品発表の場の提供	□陶芸祭時に作陶展を年1回開催 ※「全国公募・アマチュア陶芸展」は隔年開催	1回/年	1回/年	1回/年	B	ネット特別賞は耐震工事の為中止、『アマチュア陶芸展』入選作品は陶芸誌『陶軸』に発表掲載。		
8	◆(指定期間5年間に)新講座、実験的講座の開講	新講座として、季節の焼き物体験を開講	実施	実施	実施	B			
3 市内の公益的作陶活動に対する支援	9	◆公益的作陶活動の施設指導者対象の研修講座の開催	●陶芸指導者研修講座 □開催数 □目標利用者数	1回/年	1回/年	1回/年	B	【成果】 指導者研修講座で担当講師に作陶に関する疑問や解決方法を忌憚なく質問できる講座の雰囲気、受講者に好評でした。中には作陶技術を向上させるために、自律型教室を受講される先生もおられました。また、電話やメールでの質問・相談も徐々に増え、相談内容も多岐にわたりました。  【課題】 指導者研修講座の受講希望者は、年々減少傾向にあり、例年は2日間の講座でしたが、近年は1日だけの講座になっております。各学校での陶芸に関する授業の縮小なのか、また、陶芸機材を使い慣れていない電気炉などがあると思われる。稼動には、点検が欠かせませんが、永年稼動していない窯の扱い方等の情報を提供する方法があれば、陶芸人口の増加につながるもおもわれます。また、団体教室で使用する釉薬の種類を季節に合わせてたり、子ども向けにカラフルな釉薬に変更可能か検討課題となりました。	【評価できる点】 「指導者研修講座」は、高い専門性を持つ施設である陶芸センターが、陶芸知識を学校に伝える、公共施設として重要な事業です。異なる講座を受講する等、陶芸に更なる関心をもつような内容を提供している点を高く評価します。  【改善が必要と考えられる点】 「指導者研修講座」の他に、学校等、公益的作陶活動施設へのアプローチは引き続き検討が必要です。団体教室の実績が目標を下回っていますが、団体教室は、今まで実施していた広報と対象や媒体を変えることで、新たな利用客層の獲得につながる可能性があると考えます。また、そのためには、利用者の自主的な情報収集にまかせるだけでなく、陶芸センター側から、まずはウェブサイト等を活用し「団体教室の利用の仕方」など、イメージしやすい広報を仕掛けることも検討してください。
		10	◆公共機関等で陶芸の知識を持たない機関に対する相談対応。	□陶芸についての相談、出張教室の要望等について積極的に対応	実施	実施	実施		
	11	◆(指定期間5年間に)出張教室・講座等の対応等、陶芸知識の発信による基地化	●公益的な作陶活動への情報発信 □小、中、高校へのDM発送 □学童保育へのDM発送	1回/年	1回/年	1回/年	B		
			●陶芸知識の基地化 □陶芸についての相談、出張教室の要望等について積極的に対応(再掲)	実施	実施	実施	B		
			●団体教室の開催 □開催数 □目標利用者数	10件/年	5件/年	7件/年	A		
			485人	240人	177人	B			

平成28年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

4 陶芸と市民及び来街者を結びつける場づくり	12	◆施設の象徴としての登り窯の活用	■見学用として活用するほか、公園内におけるパネル掲出場所として活用	実施	実施	実施	B	登り窯の説明を行った	【成果】 紙媒体だけではなく、新規に動画映像で制作した登り窯や陶芸センターの立地環境、活動内容他を、ホームページ上や館内のディスプレイで上映し、広報宣伝活動に役立てました。また、40年間建物正面に掲示していた陶芸センターの木製看板の汚れを除去し、新たに事務室横正面扉側に再設置し公園管理事務所ではなく、陶芸体験施設である事をアピールできました。  【課題】 陶芸センターは三溪園に隣接しているが、認知度がまだ低い状況です。認知度拡大のため、公共機関発行の地域マップや近隣施設案内看板等に陶芸センターの名前と位置情報を記載できるような働きかけを検討したいと考えます。  【評価できる点】 陶芸祭は、近隣地域と協力し、既に地域のイベントとして定着していると考えられます。本牧市民公園という場所において、様々な方が訪れるきっかけとなることから、施設周りの看板等の工夫以外にも、今後も様々な試みで施設のPRを期待しています。
			■象徴的扱いとし、印刷物等で写真を使い紹介	実施	実施	実施	B	広告媒体に登り窯を含めた写真を掲載した	
	13	◆(指定期間5年間に)近隣地域と連携した取組を行うための企画検討。	■近隣地域との連携	実施	実施	実施	B		
			■陶芸祭での三溪園・本牧市民公園・地域町内会との連携	実施	実施	実施	B		
	14	◆陶芸祭で、初めて陶芸にふれる来場者のための企画実施。	■陶芸祭来場者への対応	実施	実施	実施	B		
			■予約無しでの陶芸体験の実施	実施	実施	実施	B		
			■お茶会・バザー・作品展示会での興味の喚起	実施	実施	実施	B		
	15	◆施設利用促進のための広報・宣伝活動、ホームページや紙媒体の制作の充実	■利用促進のための広報活動	実施	実施	実施	B		
			□講座ガイドパンフレットの作成、配布	2回/年	1回/年	1回/年	B	年間講座予定スケジュール作成・発布。	
			■すべての講座募集チラシの作成、配布	実施	実施	実施	B		
			■陶芸祭チラシの作成、配布	実施	実施	実施	B		
			■紙媒体への記事掲載の推進	実施	実施	実施	B		
			□ホームページの毎月の更新	実施	実施	実施	B		
	16	◆一般見学者へ質問対応や、陶芸ライブラリー、映像等による詳細な情報、電話やホームページ等を通じての相談等の情報発信。	■一般見学者への対応	実施	実施	実施	B		
			■利用者に支障のない一般見学者の受入	実施	実施	実施	B		
			■電話・ホームページでの陶芸に関する質問への対応	実施	実施	実施	B		
5 陶芸センターに関する情報提供及び広報・プロモーション	17	◆Webサイトによる施設案内	■WEBサイトの活用	実施	実施	実施	B		
			■ホームページ以外のWEBサイトへの情報掲載	実施	実施	実施	B		
			■ホームページ上のギャラリーの充実	実施	実施	実施	B		
	18	◆陶芸関係のサイト等を活用した広報	■陶芸関係WEBサイトの活用	実施	実施	実施	B		
			□陶芸WEBサイトへの積極的な情報掲載	実施	実施	実施	B		
	19	◆(指定期間5年間に)陶芸センターの知名度アップ	■陶芸センターの情報発信	実施	実施	実施	B		
			■陶芸祭・陶芸フェスティバルの情報拡散	実施	実施	実施	B		
			■陶芸フェスティバルの公募テーマの企画	実施	実施	実施	B		
			■メディアの取材に対する積極的対応	実施	実施	実施	B		
	20	◆外国の方向けの情報発信方法の検討	■英語版チラシ・パンフレットの設置	実施	実施	チラシのみ実施	B	1日体験教室案内 4回/年、貸室・自由作陶教室 1回/年	
■英語で受講できる自由教室受講の案内			実施	実施	実施	B			
								【成果】 ホームページでの「陶芸センター講座案内」や「陶磁器が出来るまで」などの動画をアップしたところ、再生回数も増え、また、スマートフォンから講座内容のアクセスが容易になるようにサイトを改善できました。  【課題】 外国の方が講座を受講しやすいような環境を整えるため、日本語による陶芸センター講座情報を英語変換アプリ等を使用して簡単に翻訳できないか、検討中です。また、陶芸フェスティバルの企画である『全国公募・横浜アマチュア陶芸展』のテーマを今回の『くらしの器』と『生命力』（いきもの）に引き続き次回も世相を象徴するテーマで企画検討中です。	

平成28年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画			実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	当初目標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 作陶活動のための施設の提供	◆適切な施設開館及び施設の貸出	□当初目標 開館日数356日、休館日9日 ※耐震補強工事のため、開館日数241日。(12月から、112日間休館) □開館時間9時~17時	実施	実施	実施	電話・ホームページでの24時間対応。	【成果】 耐震工事期間中は全期間利用者の質問等に対応し、センター再開後、円滑に運営できるよう努めました。工事開始までの利用者対応でも大きなトラブルもなく、運営することができました。  【課題】	【評価できる点】 工事決定から休館までの期間が短期間となりましたが、休館期間に間に合うように、講座スケジュールの組み直しの他、利用者の方に対して作品や持ち物などの持ち帰りなどの適格なご案内等、非常に丁寧に対応いただいたことから、大きなトラブルもなく、円滑な工事実施につながったものと考えます。  【改善が必要と考えられる点】 特筆すべき事項なし。
	◆公園条例に基づいた利用料金の徴収	適切な利用料金の徴収 □陶芸成形室半日500円 □焼成料100gまでごとに 100円	実施	実施	実施	利用料金収入目標は、目標設定は下方修正せず。		
	◆各種講座・新規利用者・貸室の利用率増加のための工夫	□貸室稼働率 □貸室目標利用者数 □貸室目標利用料収入(焼成料含む)	98%	98%	100%	4,200,000円 2,807,200円 2,949,700円		
	◆【!】休館期間中の利用者対応	■次年度事業・講座等必要な情報をホームページ等で利用者へ提供	—	実施	実施			
2 利用者ニーズの把握及び利用者サービスの向上、アイデアノウハウの一層の活用	◆アンケートを活用した利用者サービス向上と利用促進	■利用者アンケートを実施 ■アンケートからの改善の実施	全講座で実施	全講座で実施	全講座で実施	土石類を扱う施設である為、毎日清掃を実施しているにも拘らず必然的に土間の床部分には常に粘土他の微粉塵が存在しており、館内温度の急激な変化が起きない程度の換気扇と空調機による館内環境のこまめな調整が必要です。作業時もマスクの使用を促すなど、利用者への注意喚起を努めます。	【評価できる点】 狭小なスペースでありながら、利用者にとって快適な環境を常に意識し、様々な工夫で対応している点を評価します。  【改善が必要と考えられる点】 施設スペース等の改善については、指定管理者だけでは対応できない点も多くあることから、運営をしていて、不具合がある箇所等、横浜市への情報共有等を引き続き、実施してください。	
	◆利用者への配慮をしながら、可能な限り、施設見学を受け入れ。	■一般見学者の積極的な受入 ■穴窯講座への一般見学の受入	実施	実施	実施			
	◆(指定管理期間において)施設スペースの有効利用方法等の検討	■保管場所のレイアウトの改良、拡張 ■デッドストックの廃棄によるスペースの確保	実施	実施	実施			
3 組織的な施設運営	◆適切な運営組織体制と人材の配置(毎日2名以上の勤務体制) (センター長1人、所長1人、社員2人、事務員2人、講師9人、貸室アドバイザー6人、助手1人)	■センター長1人、所長1人、社員2人、事務員3人、講師9人、貸室アドバイザー6人、助手1人	実施	実施	実施	陶芸未経験の事務スタッフには材料や技法、基礎知識などを常に説明し、陶芸知識の向上につなげる必要があります。	【評価できる点】 適切な運営組織体制や人員を配置している点を確認しました。28年度は、年度中の長期休館に対して、柔軟に対応した点を評価します。  【改善が必要と考えられる点】 特筆すべき事項なし。	
	◆適切かつ効果的な勤務体制の確立 ・各講座の指導部門では、講座担当の講師、貸室担当の貸室アドバイザー、それらの助手を配置。 ・事務部門と指導部門の円滑な連携を図るため、貸室アドバイザー・講師を兼務できる社員を1名配置。 ・事務部門に基本的な陶芸の知識、指導部門に専門知識等を提供し、全体的な知識のレベルアップを図る	■センター長月3日、所長週3~4日、事務・講師ローテーション勤務、事務部門は毎日2人以上のローテーション勤務	実施	実施	実施			
	◆個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	■職分分担表により効率的な業務遂行	実施	実施	実施			
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組	◆個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	■マイナンバー利用者の個人情報の保護 □人権に関する職員研修年1回 ■近隣地域への環境の配慮 ■横浜市中企業への優先発注	実施	実施	実施	【改善が必要と考えられる点】 適切に取り組んでいることを確認しました。  【課題】 特筆すべき事項なし。	【評価できる点】 計画通り、個人情報保護や人権研修、中小企業への優先発注に取り組みました。	
		□人権に関する職員研修年1回	1回/年	1回/年	実施			
		■近隣地域への環境の配慮	実施	実施	実施			

平成28年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画			実施状況		評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	当初目標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設及び設備の維持保全及び管理、公園管理	◆施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	□清掃業者委託による清掃	毎日	毎日	毎日	チェック B	【成果】 耐震補強工事前の白蟻の事前駆除と、センター内、天井・梁・照明器具の除塵が耐震工事期間を利用して実施することが出来ました。  【課題】 経年劣化しているコンセント・壁スイッチ類の交換修繕、防災警報設備の非常用バッテリー交換等が必要です。	【評価できる点】 日常の清掃や定期的な保守点検等、適切に対応している点を確認しました。また、公園施設として、施設周りの清掃なども適切に実施しています。 休館日が少ない施設でありながら、日頃からこまめな管理をおこなっており、かつ、28年度は、耐震補強工事の休館機会を捉えて、普段実施できない清掃等も自ら行うなど、熱意をもって施設管理を行っている点を高く評価します。  【改善が必要と考えられる点】 築年数が長い施設のため、不具合や劣化について、これまで以上に、市との共有を心がけてください。	
		□定期清掃	2回/年	1回/年	1回/年	B			
		■管理標準チェックリストの記録	実施	実施	実施	B			
	◆保守点検、備品管理、環境維持の実施	■施設設備の日常点検	実施	実施	実施	B			
		□空調機器定期保守点検	2回/年	1回/年	1回/年	B			
		□防災用設備点検	2回/年	1回/年	1回/年	B			
		□窯業機械の機能点検	毎月	毎月	毎月	B			
	◆公園の管理区域内の環境維持	□窯業機械の保守点検	1回/年	1回/年	1回/年	B			12月～3月までは休館 H29年3月末に保守点検実施(新規導入窯は含まず)
		□下洗い箱を設け、粘土、釉薬が直接流れないように管理	毎日	毎日	毎日	B			
		□排水溝、樹の掃除・汚泥量の記録	2回/年	1回/年	1回/年	B			耐震工事期間中は稼動してないため、1回に減。
◆公園管理者との連絡調整	■建物の美観維持のため屋根の松葉清掃や登り窯周辺の草刈	実施	実施	実施	B				
	■工事修繕他による車両の出入りの連絡調整	実施	実施	実施	B				
2 小破修繕の着実な実行	◆小破修繕の取組	■公園管理者と公園環境・防災についての連絡徹底	実施	実施	実施	B			
		■見回り点検による適切な維持管理	実施	実施	実施	B			
		■修繕部品の直接購入による修繕コスト削減	実施	実施	実施	B			
		■早めの小破修繕による高額修繕費の回避	実施	実施	実施	B			
3 事故予防及び緊急時の対応	◆事故防止体制・防犯、緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施	■緊急連絡網の整備と迅速な市への報告	実施	実施	実施	B			
		■警備業務一覧を職員全体で認識共有	実施	実施	実施	B			
		■日常の見回りによる危険箇所の発見	実施	実施	実施	B			
		■消毒石鹸、アルコールでの感染症対策と嘔吐物処理のマニュアル化と共有	実施	実施	実施	B			
		■蚊の発生源の除去と野鳥の死骸の報告	実施	実施	実施	B			
		■警備保障会社による24時間警備(機械整備)	実施	実施	実施	B			
4 防災に対する取組	◆日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施	□利用者も含めた防災避難訓練	2回/年	2回/年	2回/年	B			
		■職員講師に対する防災マニュアル、緊急連絡網の徹底	実施	実施	実施	B			
		■焼成について1年間無事故を目指す。	実施	実施	実施	B			
		■防災用品を準備、備蓄、更新をする	2回/年	2回/年	2回/年	B			
5 その他管理に関する事項	◆使用済み粘土、釉薬を毎日適切に管理する □産業廃棄物の管理状況をチェックし、横浜市ルート回収にて適正に廃棄する	■使用済み粘土、釉薬を毎日適切に管理する	実施	実施	実施	B			
		■チェック実施 1回/月	チェック実施 1回/月	チェック実施 1回/月	チェック実施 1回/月	B			

評価項目		H28年度計画			実施状況		評価	
Ⅳ収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	当初目標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 適切な収支構造及び収支バランス	◆指定管理料のみに依存しない収入確保の取組	●収益の改善と固定経費の削減努力	実施	実施	実施	チェック B	【成果】 効率の良いローテーションによる人件費削減と消耗品、事務用品の節約による事務経費の削減に努めました。  【課題】	【評価できる点】 経費削減等に取り組んでいる点を確認しました。  【改善が必要と考えられる点】 特筆すべき事項なし。
		■陶芸材料の在庫管理を徹底し、計画仕入れを行う	実施	実施	実施	B		
		■修繕費用の突然支出に備え建物、設備の劣化箇所を常に点検し把握する	実施	実施	実施	B		
		■利用者数の増加が見込める講座を企画する	実施	実施	実施	B		
2 指定管理料のみに依存しない収入構造の検討	◆指定管理料のみに依存しない収入確保の取組	■四半期末での収支の予測	実施	実施	実施	B		
		■自主事業講座の受講率を高め、増収を図る	実施	実施	実施	B		
		■上級講座による利用料増収	実施	実施	実施	B		
3 経費削減及び効率的運営努力	◆経費削減等効果的運営の取組	■独自グッズの開発、販売の可能性を図る	検討	検討	引き続き検討	B		
		■陶芸材料の販売価格見直しの検討	実施	実施	実施	B	サンドペーパーを無料から有料(50円)にした。	
		●固定経費の削減努力等	実施	実施	実施	B		
		□消耗品、事務用品の節約による事務経費削減、利用者からの古新聞・古布の再利用	実施	実施	実施	B	燃料を配達ではなく、直接買入れることにより、経費を削減しました。	
		■材料の直接仕入れによる輸送コスト削減	実施	実施	実施	B	小破修繕等、職員の自前修繕による経費を削減しました。	
		■自前修繕による修繕経費の抑制	実施	実施	実施	B		

平成28年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画	実施状況	評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	説明	自己評価	行政評価
1				<p>平成28年度の事業が始まってまもなく、耐震工事の日程が発表され、利用者、スタッフの不安を抱えながら、慌しく休館の準備に突入しました。年末と年始、設備点検日以外の休館がない陶芸センターでは、休館を好機と捉え、工事期間と並行してこれまでの事業の反省と次年度の事業の指針を考察する為の良い機会と考えました。またこの工事期間に館内の大型設備の移動等に伴い、普段修繕が難しい箇所が修復が可能となりました。</p> <p>また、休館中でも作陶作業を継続したい利用者のために近隣の陶芸教室に事情を説明して利用者の受入に協力していただきました。</p> <p>陶芸センターの広報・プロモーションとしては、動画を使用した情報の拡散、スマートフォンからのアクセス環境の改革など新たに取り入れた情報発信ができました。</p> <p>作陶活動の支援として、陶芸に関するいろいろな問い合わせや相談に対応することができ、これからもいっそう陶芸センターからの情報発信と基地化にまい進したいと思っております。</p>	<p>平成28年12月から耐震補強工事による4か月間の休館となり、当初計画していた事業がスケジュール通りに実施できないという状況の中、休館に向けて各種準備をしながら、施設運営を行ってきた点を高く評価します。</p> <p>施設運営の日々の中で、利用者の方やスタッフの方にも理解をいただけるような説明対応や、陶芸センターが休館期間中であっても、利用者の方が陶芸を続けられるよう尽力しました。</p> <p>また、既に施設を利用している方に対して、適切な貸館運営や、陶芸知識・作陶技術を高めていけるような場の提供を、常に心がけている点を評価します。初心者の方に対しても、まず陶芸を体験してもらうために、親しみやすい内容の新規講座に取り組むなど、積極的な取組を行っています。</p> <p>広報・プロモーションについても、陶芸に触れたことがない方に対して、いかに陶芸センターを知ってもらうかという視点で、ひとつずつ挑戦しています。今後も、引き続き、柔軟な取組を期待します。</p>